## まほろば秦野通信

平成29年11月24日

タイトル	第31回夕暮記念こども短歌大会表彰式について
When (いつ)	11月25日(土曜日) 午後1時半~3時
Where (どこで)	秦野市文化会館(平沢82) 展示室
Who (だれが)	秦野市教育委員会・秦野市立図書館
What (なにを)	第31回夕暮記念こども短歌大会表彰式
How (どのように)	9月15日までに作品を募集したところ、市内の小・中学生から2,290首に上る作品が寄せられました。歌人の寺尾登志子氏による選考の結果、50首の優秀作品が決定しましたので表彰式を開催するとともに、賞状の伝達及び選者による講評を行います。 入賞作品は、別紙のとおりです。
W h y (なぜ)	本大会は、郷土の歌人、前田夕暮(まえだ,ゆうぐれ)を顕彰し、その業績を称え、市内の小・中学校の児童・生徒に短歌に親しむことを通じて豊かな人間性を育むとともに、ふるさと秦野の文化、特に文学遺産に対する関心、興味を高めることにより「短歌のふるさとづくり」事業の推進のために実施しています。
過去の実績	昭和62年度から毎年開催しています。本年度は第31回となり、過去の応募総数は5万2000首を超えています。 なお、平成19年度以降は、秦野中ロータリークラブの協賛をいただき、参加賞の提供などの協力を得て実施しています。
今後の 取り組み	来年度以降についても、引き続き開催していく予定です。
問い合わせ	図書館庶務奉仕担当 山口 電話 O 4 6 3 (8 1) 7 O 1 2

## 第三十一回夕暮記念こども短歌大会入賞歌 小学生の部

25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	No.
<b>佳</b> 作	佳作	佳作	佳作	佳作	佳作	佳作	佳作	佳作	佳作	佳作	佳作	佳作	佳作	佳作	佳作	佳作	佳作	佳作	佳作	者賞登志子選	館長賞を野市立図書	長賞リークラブ会秦野中ロータ	員会教育長賞秦野市教育委	秦野市長賞	賞名
てるぼうず おとうさん たぬきいぬねこ かぶとむし おたまじゃくしに てる	ジャイアンツ小林せいじはキャッチャーだ日本代表のスタメンマスク	じゃ ないおじいちゃんキュ ウリの馬もいいけれどポルシェ のミニカー いいん	いちぢくがむらさきになり秋感じ色々なこと始める時分	ぼくの夏田畑でバッタつかまえてせまい虫かご夏の思い出	夏の川中へ飛び込み爽快だ次はもぐって鮎と泳ごう	暑くなりスイカがさらにあまくなる夏の暑さもスイカのあまさ	空ぶりで父に怒られすぶりする今日も暑いが夕立くるか	暑い砂サンダル探し走り出す友の背中に夏が始まる	うめの花小さなつぼみひらくときそれはわたしの生まれた二月	大海のなみをあやつるいたのうえエンジンのない船をうごかす	マウンドで一番背負い勝利へと導く自分の最後の一球	授業中扇風機の風気持ち良い目をそらすたびページ変わってる	ぼくたちが珍しがられた旅行先日本人居ぬ京都の宿だ	終わりなき尾瀬の草原細い道朝もやの中響く足音	うろの中やみにうごめくオオクワは月に照らされてかり輝く	ヒグラシは夕方金にかがやいて森でカナカナきれいにないた	すきとおるかがやく川の四万十は自然の中のガラスのようだ	伊豆に行きばあばと会った海に行きひとりで遊んだいつもひとり	ラムネびんすかしてのぞく向こう側広がる青空泡と飲み込む	ヤドカリや重い荷物を背負っている重すぎてもう夕日がでてる	ハンドベル音が重なるハーモニー紅葉と一緒に音も色づく	病院で友達に会いびっくりだ二人そろってくすくす笑う	おやすみで今日の自分とさようならまた会うときは明日の自分	白い雪水が凍った白いつぶ私は雪の結晶だった	作品
東	南	鶴巻	東	北	上	鶴巻	南	鶴巻	東	東	鶴巻	鶴巻	東	東	南	渋沢	南	南	南	東	本町	西	西	南	学校名
																									名
5	6	6	6	5	6	6	6	6	4	5	6	5	6	6	5	4	5	5	5	4	6	5	5	6	学 年
プ l ウ	柿 <sup>か</sup> 田た	比 <sub>ひ</sub> 留る 間ま	青 <sup>ヵ</sup> 木 <sup>ぉ</sup>	網 <sup>あ</sup> み 屋や	佐き藤ヶ	<b>今</b> ぃ 井ぃ	森り 山やま	古る。正ら	野の間ま	久< 保 <sup>ほ</sup> 田た	高 <sup>た</sup> 田 <sup>だ</sup>	山 <sup>*</sup> t 城 <sup>2</sup> s	野の間ま	小 <sup>お</sup> 川 <sub>わ</sub>	須す 藤っ	米 <sub>ね</sub> 山*	佐き藤ヶ	小 <sup>お</sup> 原ら	中 <sup>な</sup> かにし	町 <sup>ま</sup> 田 <sup>た</sup>	小 <sup>z</sup> 室 <sup>z</sup> s	関 <sup>et</sup> 口 <sub>ち</sub>	柳 <sup>や</sup> ぎゅ 生ぅ	加か藤ヶ	氏 <sup>L</sup>
ウンチー ワン	<b>諒</b> 。	れ い 奈 <sup>な</sup>	快於 情於	曜る	彩や人と	智炎 紀幸	晴る 智も	大だりま	尚 <sup>*</sup> 子:	<b>英</b> 喜。	朱かね	琉 <sup>‡</sup> 海 <sup>5</sup>	耕る	真素奈な実み	<b>芸</b> さ る	太t v ~ 5	凜ん	愛の音ん	重れ	蒼~ 空ら	良りを整理を	花は菜な	真* 由 <sup> </sup>	美學	<b>名</b> 炎

## 第三十一回夕暮記念こども短歌大会入賞歌 中学生の部

25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	No.
佳作	佳作	<b>佳</b> 作	佳作	<b>佳</b> 作	佳作	<b>佳</b> 作	佳作	佳作	佳作	佳作	佳作	佳作	<b>佳</b> 作	佳作	<b>佳</b> 作	佳作	佳作	佳作	<b>佳</b> 作	者賞 登志子選		長賞 リークラブ会 秦野中ロータ	会教育 長 野市教育	秦野市長賞	賞名
初めてのアンサンブルのコンクール息を合わせてアイコンタクト	予習して翡翠求めて海岸へ終日の成果ただの石ころ	部屋のすみ視線感じてふり向けば思い出つまったランドセルかな	白と黒ころがるボール追いかけて疲れて帰る新緑の道	セミがなく探してみるがみつからずにまるで木々がないてるようだ	江ノ電にゆられてついた七里ガ浜その海われを待っていたよう	ライバルに負けて悔しい一対一夕日が照らす家までの道	霧の朝光差し込み見えてくる写真の中でほほえむ私	水しぶき太陽の光アスファルト汗のにおいと笑顔のすきま	遠くてもそばに感じる存在がこぼれる涙ぬぐってくれる	いる 消えはしない星座のようになれたらな闇の中でも何もなくさずそこに	雨の中大空かける夏の虹思わず探す自分の色を	帆を広げ自由な海へと進みゆく大海原の猛き白鳥	授業中頬づえをつく私の手机に浮かぶは架空の世界	逆光で見えない顔を忘れても夏と思いで忘れられずに	近所の子まつげにマッチのるらしい私のマツゲ糸すらのらず	女坂鮮やかな緑に移り変わり私にささやく「夏が来るよ」と	家の中歓声だけが響いてるテレビの中は夏の甲子園	帰り道いつも遠目で追いかけるいつまでとなりにいさせてくれる	富士山をながめて乗った観覧車狭くて暑い家族との距離	沖縄の緑の海のサンゴ礁魚で着飾り虹色の花	温かく心安らぐ木の力私の恋人クラリネットよ	ふと空を見上げてみればかくれんぼしているのかな青空とビル	舞台上音色を響かせ大空へ7月下旬のたった7分	寂しげな夏の終わりに永遠(とわ)に待つ君へとつなぐ最終列車	作品
中相 等模 教育	鶴巻	鶴巻	南 が 丘	大根	東	南	鶴巻	西	南	南	南	渋沢	南が丘	南が丘	南が丘	南が丘	南	南	南	西	北	渋沢	南	西	学校名
1	2	1	2	2	2	2	2	2	3	1	1	2	2	2	2	2	2	3	2	2	1	2	2	2	学 年
石ぃ 井ぃ	篠ぃ 木き	岩 <sup>n</sup> 田t	笹gata 原b	全 <sup>*</sup> 。 田 <sup>*</sup>	久< 保 <sup>ほ</sup> 田 <sup>た</sup>	佐さ 伯き	松 <sup>ま</sup> っぱ	稲な葉は	遠なたを	磯v 崎 <sup>č</sup>	伊ぃ 部ベ	野 <sup>の</sup> 々 <sup>ゃ</sup> 山 <sub>ま</sub>	武 <sup>た</sup> 田 <sup>だ</sup>	市はたける。	成なり 田 <sup>た</sup>	大岩 平 0 6	森り 山や	高なる。	古しり	進んとう	相が原は	柏 <sup>か</sup> しわき	鳴まる 本と	河 <sup>5</sup> 野 <sup>の</sup>	氏L
李ŋ 紗i	<b>集</b> はやと	夏なっ	大學	有。	朱物の	アンドレ	梨りを大力が	桃*。 子:	光射 紗	<b>啓</b> t	遥g 大と	見をうりょう	彩 <sup>物</sup> 中本	春は菜な	陽 <sup>o</sup> 向 <sup>c</sup> 子 <sup>c</sup>	花 <sup>*</sup> 乃 <sup>0</sup>	怜n 奈c	理り子	莉りマッ菜な	里ゥ咲き子	杂。	素業	里"海5	凪なき 紗さ	<b>名</b> %